

令和4年度保健科学部 理学療法学科 4学年 シラバス

哲学	・・・P1～
日本国憲法	・・・P3～
英語Ⅲ	・・・P4～
チーム医療Ⅱ（演習）	・・・P6～
卒業研究	・・・P8～
運動器障害理学療法学特論	・・・P9～
神経障害理学療法学特論	・・・P10～
理学療法発展領域論	・・・P11～
応用的臨床技能演習	・・・P13～
臨床実習Ⅴ	・・・P15～
地域理学療法学実習	・・・P16～

科目名	哲学【保健4】	科目名(英語)	哲学
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	福田俊章		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義と討論
受講要件			
授業の概要			
<p>人間は人間であるかぎり誰でも、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことに外ならない。「哲学への最良の入門は自分で問題を立てること、自分でその問題を考えることだ」と言われるのも、そのためである。この授業では、そうした営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになることを目指したい。</p> <p>「万学の女王としての哲学」などというかつての観念が今日なおも通用するとは思えないが、ロゴスの探求がもっとも自覚的に行なわれた時代の思索を顧みることにはなおも意味があるだろう。哲学の守護聖人とも呼ぶべきソクラテスの「知らないということを知っていること(無知の知)こそ最上の知である」という洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついているように思う。</p> <p>この授業では、西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指したい。</p>			
学習目標			
<p>「いい哲学者になるためにたった一つ必要なのは、驚くという才能だ」(『ソフィーの世界』)と言われるのはどうしてか。「哲学を馬鹿にすることこそ、真に哲学することである」(パスカル)、「人は決して哲学を教わることが出来ず、ただかたか哲学するのを学ぶことが出来るだけである」(カント)とはどういう意味か。こうした問題意識に触れることによって、「一旦は立ち止まって考えてみる」という思索態度を身につける。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		導入:「知を愛する」こと、ロゴスの探求としての哲学	福田俊章
第2回		古代ギリシアの自然哲学:存在と生成変化、水は水のまま水以外のものになる?	福田俊章
第3回		ソクラテス:「無知の知」、「知らない」ということをどうして知っているのか?	福田俊章
第4回		プラトン:イデア論、ただちょっと「忘れていた」だけ?	福田俊章
第5回		アリストテレス:イデア論批判 梅は梅らしく、桜は桜らしく?	福田俊章
第6回		ヘレニズム思想:幸福とは「不幸でない」ことか?	福田俊章
第7回		ヨーロッパ中世の哲学:「理解せんがために我信ず」とは?	福田俊章
第8回		近代哲学の幕開け:人権思想と近代自然科学とに通底するものは?	福田俊章
第9回		デカルト:「我思う、故に我あり」、私に心はあるのか?	福田俊章
第10回		大陸「合理論」と英国「経験論」:我々人間の知識は何に由来するのか?	福田俊章
第11回		カント:「我々の認識は経験と共に始まるが、経験にもとづいて生じるのではない」?	福田俊章
第12回		心身問題:相互作用説と随伴現象説、テレパシーは心の存在を証するか?	福田俊章
第13回		人格の同一性:身体説と記憶説 記憶と身体どちらが入れ替わったのか?	福田俊章
第14回		科学の科学性:検証と反証、反証不可能な主張は科学的か?	福田俊章
第15回		神の存在証明:完全無欠な存在者は必ず存在するか?	福田俊章
テキスト	特定の教科書は用いない。		
参考書	随時資料を配付するとともに、その都度参考文献の紹介に努めたい。		
成績の評価方法	授業への参画態度を評価することに加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末に課すことにしたい。		
その他	専門課程の講義や実習が目白押しで忙しい時期とは思いますが、自分の頭でものを考える機会と思っ		

て御参加ください。

科目名	日本国憲法【保健4】	科目名(英語)	日本国憲法
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	元井貴子		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が如何なる意義や趣旨に基づくのかという点に至るまで深く講義していく。また、憲法上の問題については具体的な事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるように、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。</p>			
学習目標			
<p>(1)日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる(2)憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる(3)人権問題を理解し、他人の人権を尊重できるようになる(4)法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことができるようになる</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		日本国憲法の基本原理	元井貴子
第2回		基本的人権①享有主体性	元井貴子
第3回		基本的人権②幸福追求権	元井貴子
第4回		基本的人権③法の下での平等	元井貴子
第5回		基本的人権④信教の自由と政教分離	元井貴子
第6回		基本的人権⑤表現の自由	元井貴子
第7回		基本的人権⑥表現の自由の制限	元井貴子
第8回		基本的人権⑦経済的自由	元井貴子
第9回		基本的人権⑧人身の自由	元井貴子
第10回		基本的人権⑨社会権	元井貴子
第11回		統治機構①国民主権と選挙	元井貴子
第12回		統治機構②国会	元井貴子
第13回		統治機構③内閣	元井貴子
第14回		統治機構④裁判所	元井貴子
第15回		平和主義	元井貴子
テキスト	吉田仁美著『スタート憲法(第2版補訂版)』成文堂 2016年3月20日発行		
参考書			
成績の評価方法	筆記試験40%、確認テスト30%、グループワーク実施報告書15%、リアクションペーパー15%		
その他	講義で学んだ事柄に関連するニュース報道に興味関心を持ちましょう。		

科目名	英語Ⅲ【保健4】	科目名(英語)	英語Ⅲ
区分	外国語科目	単位数	1.0
担当責任者	安田尚子		
開講年次	4	教室	ICT教室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>英語ⅠA,Bおよび英語ⅡA,Bで習得した知識・スキルに基づいて、医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体(箇条書き等)を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。この授業は4学科合同で行う。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術英語で使用される表現や文体を選び、論理的なパラグラフを書くことができる。 2. スライドショーに必要な英語の箇条書きの方法と文章省略のルールを理解し、書くことができる。 3. 信憑性のある情報を検索・選択し、正しい方法で引用することができる。 4. 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、スライドに基づいて自分の言葉で発表することができる。 5. プレゼンテーションの質疑応答を効果的に行うことができる。 6. プレゼンテーションに必要な発声方法、ジェスチャー、視線などを理解し、自信をもって相手に伝わりやすい発表ができる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		Introduction: Syllabus Ice break activities	安田尚子、久保田 恵佑
第2回		Academic English vs. casual English	安田尚子、久保田 恵佑
第3回		Structure of a presentation: Introduction	安田尚子、久保田 恵佑
第4回		Structure of a presentation: Body	安田尚子、久保田 恵佑
第5回		Structure of a presentation: Conclusion and references	安田尚子、久保田 恵佑
第6回		Avoid plagiarism: How to find and cite references	安田尚子、久保田 恵佑
第7回		Effective slideshow: How to use Powerpoint, find good images and charts	安田尚子、久保田 恵佑
第8回		How to use bullet points	安田尚子、久保田 恵佑
第9回		Make a slideshow: Explanation	安田尚子、久保田 恵佑
第10回		Make a slideshow: Comparison slideshow	安田尚子、久保田 恵佑
第11回		Speaking skills for a presentation	安田尚子、久保田 恵佑
第12回		Nonlinguistic skills: good gesture and eye contact	安田尚子、久保田 恵佑
第13回		Group work: Get ready for your presentation!	安田尚子、久保田 恵佑
第14回		Presentation 1	安田尚子、久保田 恵佑
第15回		Presentation 2	安田尚子、久保田

回		恵佑
テキスト	Michael Hood, "Dynamic Presentations" 金星堂、2007年、ISBN-978-4-7647-4029-7	
参考書		
成績の評価方法	授業内アクティビティ 20%、ホームワーク 20%、グループワーク 20%、ファイナルプロジェクト 40%	
その他	プレゼンテーションは聴衆が誰か、目的が何かによってスタイルや手法が違ってきます。それぞれの目的に合わせた効果的なプレゼンテーションの方法を学んでいきましょう。	

科目名	チーム医療Ⅱ（演習）【保健4】	科目名（英語）	チーム医療Ⅱ（演習）
区分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>チーム医療の実践について学ぶ。チーム医療Ⅱでは、呈示された症例を元に医学部と看護学部の学生と共に、小グループに分かれて、自分の職種は何か出来るか、何をすべきかについて討論する。そしてグループ毎に発表する。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある患者とする。</p>			
学習目標			
<p>(1) チーム医療の目標を説明できる。 (2) チームメンバーと円滑なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 各医療職種の専門性、役割および責任を説明できる。 (4) 症例に対して各医療職種が取り組むべき問題点を明確化し、自身の役割と仕事を説明できる。 (5) チーム医療の立場から医療を考え、メンバーと連携して問題解決ができる。 (6) Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)を体験し、チーム医療の重要性を理解できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容（キーワード等）	担当教員
第1回		2学部（看・保）5学科の学生 Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)演習	種田憲一郎 （国立保健医療科学院） 保健科学部教員 看護学部教員
第2回		Team STEPPS演習	同上
第3回		Team STEPPS演習	同上
第4回		症例供覧（全グループ同じ症例） 学科毎のディスカッション	保健科学部教員 看護学部教員
第5回		グループ内自己紹介・職種紹介 グループディスカッション	同上
第6回		グループディスカッション	同上
第7回		発表資料作成 発表&質疑応答	同上
第8回		発表&質疑応答	同上
第9回		振り返りと意見交換	同上
第10回		3学部（医・看・保）6学科の学生 症例供覧 グループディスカッション	保健科学部教員 医療人育成・支援センター教員 看護学部教員
第11回		グループディスカッション	同上
第12回		グループディスカッション 発表資料作成	同上
第13回		発表&質疑応答	同上
第14回		発表&質疑応答	同上
第15回		現場のカンファランス見学 （実際の多職種でのカンファランスを見て、学ぶ。大学病院編） 見学後の意見交換	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	川村治子、『医療安全ワークブック（第4版）』、医学書院、2018		

成績の評価方法	レポート80%、教員によるグループ評価20%
その他	<p>担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健科学部 矢吹省司（理学療法学科） 森下慎一郎（理学療法学科） 阿部浩明（理学療法学科） 星真行（理学療法学科） 佐藤聡見（理学療法学科） 五百川和明（作業療法学科） 倉澤茂樹（作業療法学科） 林博史（作業療法学科） 川又寛徳（作業療法学科） 高橋規之（診療放射線科学科） 福田篤志（診療放射線科学科） 佐藤久志（診療放射線科学科） 小川一英（臨床検査学科） 豊川真弘（臨床検査学科） 鈴木英明（臨床検査学科） 高橋一人（臨床検査学科） ・看護学部 和田久美子 菅野久美 大川貴子 片桐和子 古溝陽子 吾妻陽子 ・医療人育成・支援センター 大谷晃司 亀岡弥生 安田恵 ・国立保健医療科学院 種田憲一

科目名	卒業研究（理学）【保健4】	科目名（英語）	卒業研究（理学）	
区 分	基礎理学療法学	単位数	4.0	
担当責任者	神先秀人			
開講年次	4	教室	運動学実習室、他	
必修／選択	必修	授業形態	実習	
受講要件				
授業の概要				
卒業研究では研究計画の立案から研究の実施、結果の解析、考察と結論の導出までの一連の基本的なプロセスを理解し、実行する。				
学習目標				
1) 卒業研究計画書を作成できる。 2) 卒業研究計画書にしたがって研究を実施できる。 3) 研究対象者への説明と同意などの倫理的配慮が実施できる。 4) 収集したデータを適切に管理できる。 5) 卒業論文を作成できる。				
授業内容(学習項目)				
項目・内容（キーワード等）			担当教員	
1 - 10	4年次4月	研究計画検討	理学療法学科研究指導教員	
11 - 25	同上	予備実験		
26 - 32	同上	研究計画再検討		
33 - 40	同上	研究計画発表会		
41 - 130	10月～11月	計測実施		
131 - 150	同上	解析・考察・発表会準備		
151 - 165	12月	卒業研究発表会		
166 - 180	同上	卒業論文作成		
テキスト	特定のテキストはありません。			
参考書	授業中に紹介します。			
成績の評価方法	・ゼミを通して、論文作成を含む研究への取り組み方を評価します。（60% 評価者：指導教員） ・作成した卒業論文を評価します。（40% 評価者：学科教員）			
その他	新しい知見に到達しようという意欲をもって取り組んでください。			

科目名	運動器障害理学療法学特論【保健4】	科目名(英語)	運動器障害理学療法学特論
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	4	教室	運動療法室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
運動器障害理学療法学特論では、運動器障害理学療法学および演習で取り扱わなかった「熱傷に対する理学療法」について学ぶ。また、これまで学んだ種々の運動器疾患に関連した最新の知見について学修する。			
学習目標			
運動器疾患の理学療法に関連する最新の知見を理解する。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		熱傷の理学療法1(評価)	矢口春木 (東北大学病院)
第2回		熱傷の理学療法2(治療)	同上
第3回		変形性股関節症の理学療法 最新のトピック(保存療法)	神先
第4回		変形性股関節症の理学療法 最新のトピック(手術方法)	同上
第5回		変形性股関節症の理学療法 最新のトピック(術後管理)	同上
第6回		変形性膝関節症の理学療法 最新のトピック(保存療法)	同上
第7回		変形性膝関節症の理学療法 最新のトピック(手術方法と術後管理)	同上
第8回		人工股関節術後の理学療法 最新のトピック(手術方法)	中野渡
第9回		人工股関節術後の理学療法 最新のトピック(術後管理)	同上
第10回		人工膝関節術後の理学療法 最新のトピック(手術方法)	同上
第11回		人工膝関節術後の理学療法 最新のトピック(術後管理)	同上
第12回		肩関節疾患の理学療法 最新のトピック(保存療法)	遠藤
第13回		肩関節疾患の理学療法 最新のトピック(手術と術後管理)	同上
第14回		脊椎疾患および腰痛の理学療法 最新のトピック(保存療法)	小俣
第15回		脊椎疾患および腰痛の理学療法 最新のトピック(手術と術後管理)	同上
テキスト	特定のテキストはありません。資料を準備します。		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	定期試験80%、レポート20%		
その他			

科目名	神経障害理学療法学特論【保健4】		科目名(英語)	神経障害理学療法学特論
区分	理学療法治療学		単位数	1.0
担当責任者	阿部浩明			
開講年次	4	教室	運動療法室	
必修/選択	選択	授業形態	講義と演習	
受講要件				
授業の概要				
神経障害の理学療法・リハビリテーションに関する最新のトピックスを理解します。				
学習目標				
<p>1) 神経障害による運動機能を科学的にとらえ、中枢神経障害に対して試みられる新しい介入方法や試みを学習します。</p> <p>2) リハビリテーションに関する最新のトピックスについて、講義と演習を交えながら臨床で活かせる知識と技術を習得します。</p>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		神経障害理学療法学を学ぶ上で必要な神経機構の整理		阿部浩明
第2回		脳画像の情報と運動・感覚機能との関連性		同上
第3回		脳画像の情報と高次脳機能障害との関連性		同上
第4回		先端的脳画像研究概論		同上
第5回		中枢神経系の可塑性と理学療法との関係性		同上
第6回		運動制御と運動学習の理論		同上
第7回		神経可塑性と運動学習理論に基づく運動療法		同上
第8回		早期理学療法のエビデンス		同上
第9回		早期理学療法の実践		同上
第10回		下肢装具を用いた中枢神経系理学療法の最前線		同上
第11回		歩行分析に基づく中枢神経系障害の歩行障害の要因		同上
第12回		中枢神経系障害による歩行能力の再建の実例		同上
第13回		物理療法を併用したニューロリハビリテーション		同上
第14回		ロボティクスを用いたニューロリハビリテーション		同上
第15回		再生医療とリハビリテーション		同上
テキスト	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 吉尾雅春他編 医学書院			
参考書	脳卒中理学療法の理論と技術 原寛美他編集 メジカルビュー 脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション 阿部浩明他編集 メジカルビュー 高次脳機能障害に対する理学療法 阿部浩明編集 文光堂			
成績の評価方法	定期試験(筆記試験) 100%			
その他	授業で実技を行う場合には、事前に体操服に着替えるようお知らせします。また、シラバスに沿って授業を展開します。事前に講義内容について予め学習して臨んでください。			

科目名	理学療法発展領域論【保健4】	科目名(英語)	理学療法発展領域論
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	高橋仁美		
開講年次	4	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
理学療法および関連分野において、比較的新しくかつ急速に発展が認められる領域に焦点を当て、先端の知識や治療技術を学ぶことを目的に教授する。			
学習目標			
1) ロボティクスと理学療法について説明できる。 2) 産業保健と理学療法について説明できる。 3) 精神・心理領域の理学療法について説明できる。 4) 特別支援教育と理学療法について説明できる。 5) 動物に対する理学療法について説明できる。 6) 基礎研究における理学療法士の可能性について説明できる。 7) 行政機関における理学療法士の可能性について説明できる。 8) 福祉工学と理学療法について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		ロボティクスと理学療法	安永好宏(CYBERDYNE株式会社) 鈴木一恵 (国立病院機構いわき病院)
第2回		ロボティクスと理学療法(デモンストレーションを含む)	同上
第3回		産業保健と理学療法 現状	佐藤友則 (東北労災病院)
第4回		産業保健と理学療法 可能性と課題	同上
第5回		精神・心理領域の理学療法 現状	仙波浩幸 (日本保健医療大学)
第6回		精神・心理領域の理学療法 可能性と課題	同上
第7回		特別支援教育と理学療法 現状	竹田智之(横浜市教育委員会 特別支援教育相談課)
第8回		特別支援教育と理学療法 可能性と課題	同上
第9回		動物に対する理学療法 現状	野口裕美 (四條畷大学)
第10回		動物に対する理学療法 可能性と課題	同上
第11回		基礎研究における理学療法士 現状	坂本美喜 (北里大学)
第12回		基礎研究における理学療法士 可能性と課題	同上
第13回		行政機関における理学療法士の可能性	田上未来 (厚労省社会・援護局)
第14回		福祉工学と理学療法	同上

第15回	私の考える理学療法の発展領域（ディスカッション）	高橋仁美
テキスト	特定のテキストはありません。	
参考書	授業中に紹介します。	
成績の評価方法	定期試験70%、レポート30%	
その他		

科目名	応用的臨床技能演習【保健4】	科目名(英語)	応用的臨床技能演習
区分	臨床実習	単位数	1.0
担当責任者	遠藤康裕		
開講年次	4	教室	理学療法評価室、運動療法室、講義室
必修/選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
概要：本科目は臨床実習Ⅲ～Ⅴの履修を通して、理学療法士養成教育終了時に獲得しているべき臨床技能の水準に到達しているかを判定することを目的とする。			
学習目標			
1) 臨床実習Ⅴで経験した症例を報告し、専任教員の質疑に応答できる。 2) 模擬症例について情報収集、評価、治療の一連の過程を計画できる。 3) 模擬患者に対して必要な検査測定を実施できる。 4) 模擬症例の評価結果を記録し報告できる。 5) 臨床実習(総合実習)の到達目標に達していることを示せる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		オリエンテーション	臨床実習担当教員
第3~4回		臨床実習Ⅴ症例発表グループ1	同上
第5~6回		臨床実習Ⅴ症例発表グループ2	同上
第7~8回		臨床実習Ⅴ症例発表グループ3	同上
第9~10回		臨床実習Ⅴ症例発表グループ4	同上
第11~12回		臨床実習Ⅴ症例発表グループ5	同上
第13~14回		模擬症例提示と課題練習 練習(医療面接)	同上
第15~16回		模擬症例提示と課題練習 練習(機能的検査)	同上
第17~18回		模擬症例提示と課題練習 練習(動作分析)	同上
第19~20回		模擬症例提示と課題練習 練習(日常生活動作指導)	同上
第21~22回		模擬症例提示と課題練習 練習:報告	同上
第23~24回		応用的臨床技能試験 1. 医療面接 2. 機能的検査 3. 動作分析	同上

		4. 日常生活動作指導 5. 報告	
第25~ 26回		同 上	同 上
第27~ 28回		同 上	同 上
第29~ 30回		同 上	同 上
テキスト	応用的臨床技能演習実施要領		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	応用的臨床技能試験100%		
その他	1) 応用的臨床技能試験では各項目で60%以上の得点で合格とします。 2) 応用的臨床技能試験に不合格となった場合、1週間後に再試験を1回に限り実施します。		

科目名	臨床実習Ⅴ（理学）【保健4】	科目名（英語）	臨床実習Ⅴ（理学）
区 分	臨床実習	単位数	7.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	4	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件	OSCEに合格していること。		
授業の概要			
<p>「臨床実習Ⅴ」は臨床実習Ⅳに引き続き行われる総合実習である。実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、代表的な疾患に対して評価および治療を経験する。この過程で治療プログラムの立案も経験し、臨床的思考過程を学ぶ。また、この過程で症状、治療結果や経過に合わせて適切にプログラムの変更ができることを目指す。</p> <p>本臨床実習は、すべて福島県内の医療機関や介護老人保健施設で実施する。その中で、福島県の地域に根差したそれぞれの実習施設において、地域の特性に合わせた理学療法士の役割も学ぶ。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に対応する科目である。担当教員は定期的に学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに現地巡回を行って指導する。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 指導者の助言を仰ぎながら、他部門との情報交換ができる。 2) チーム医療の必要性を認識することができる。 3) 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識を述べることができる。 4) 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 5) 基本的な治療（技術）を実施できる。 6) 対象者のリスクを把握し、指導者の助言を仰ぎながらリスクの配慮、管理ができる。 7) 症状、治療結果や経過に合わせて適切にプログラムの変更ができる。 			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
1 週	オリエンテーション、施設内見学、理学療法場面見学	臨床実習指導者 臨床実習担当教員	
2 - 4 週	診療参加型実習、情報収集・評価・プログラム立案・治療 カンファレンス等参加		
5 - 6週	診療参加型実習、再評価・プログラム変更・治療 カンファレンス等参加		
7 週	診療参加型実習、再評価・プログラム変更・治療 まとめ		
テキスト	臨床実習要綱（実習の手引き）、臨床実習関係書類		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告（発表及び報告書）20%、ポートフォリオ20%		
その他	実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施します。		

科目名	地域理学療法学実習【保健4】	科目名(英語)	地域理学療法学実習
区分	臨床実習	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	4	教室	臨床実習施設
必修/選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>地域在住の理学療法対象者に生活機能に視点をおいた評価を行い、支障をきたしている点を整理し、理学療法士としての知識や技術の提供を行う一連の過程を理解する。訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションの見学、体験をとおり、実習指導者の助言、指導のもと、対象者の一連の過程を経験する。担当教員は学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに必要に応じて現地巡回を行って指導する。当科目は、地域医療に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設における見学をとおり、訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションの役割と目的を理解する。 2) 医療、保健、福祉における他職種・同職種の連携を理解する。 3) 生活機能に視点を置いた一連の理学療法を見学し理解する。 4) 指導者の助言、指導のもと生活機能に必要な情報収集と理学療法の評価を実施し、知識や技術を提案できる。 			
授業内容(学習項目)			
項目・内容(キーワード等)		担当教員	
1日	実習施設における理学療法の流れを1日とおして見学する。	臨床実習指導者 臨床実習担当教員	
2-3日	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションを利用している地域在住の対象者に対して、生活機能に必要な情報収集と評価を一部実施する。		
4-5日	上記の対象者に対して、実習指導者の助言、指導のもと理学療法を提案し、実施する。		
テキスト	臨床実習要綱(実習の手引き)、臨床実習関係書類		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告(発表及び報告書)20%、ポートフォリオ20%		
その他	実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施します。		